

統合医療東北支部 in 気仙沼ボランティア報告

1. 日 時 2011年6月18(土)～19日(日)
2. 場 所 気仙沼カントリークラブ及び 階上中学校
3. 参加者 ヨーガ療法士
佐藤美弥子 伊藤久子 玉木瑞枝 高平美智子
米田加代子 藤井早苗 遠藤ますえ
4. 対象者 階上中学校 避難所の避難者

5. 状況

気仙沼でのヨーガ療法実施に当たり、事前に佐藤が現地に入り会場の下見や交通事情などを調査したところ、会場にあてられた気仙沼カントリークラブではヨーガ療法を実施するスペースがなく近くに避難所になっている学校があれば、そこに出向くことを伝えたところすぐに理事長の千葉さんが階上中学校に連絡を取ってくださり、学校に出向き管理していた市役所の方と打ち合わせをし、そこでヨーガ療法実施ということになりました。

ボランティア当日の18日(土)、午前7時30分に泉中央に集合し2台の車で、気仙沼カントリークラブへ。南三陸道は所々渋滞や迂回路も多いため、距離的には遠回りになりますが、東北自動車道で一関を經由し目的地へ向かいました。気仙沼に入ったところで、インドネシア大統領の災害地訪問のため、通行止めにあい迂回したものの、途中で道がなくなっていたり、海からかなり離れているにもかかわらず大きな船が打ち上げられていたり高台にある駅がめっちゃめっちゃになっていたり写真では見ていた気仙沼の震災や避難状況を目の当たりにして、3ヶ月以上経っているのにほとんど手がつけられていない現状に愕然としました。

午前11時前にはカントリークラブに到着し、今回の関係者と挨拶を交わし、用意していただいた豚汁等の昼食をいただき、その後、階上中学校へ出向きさっそくヨーガ療法に入りました。体育館と2教室が避難所に当てられていて、学校としても使用されているためすぐ奥は生徒たちの教室となっているような状況でした。

避難所でのヨーガ療法は、皆さんすでに何回か経験していますので、傾聴から

始め上手にヨーガ療法に入っていたのではないかと思います。

午後2時から、クラブハウスで音楽療法を実施することになっていて、今回の気仙沼での活動は、統合医療の活動の一環として入ったということもあり、ヨーガ療法後にクラブハウスに戻り、音楽療法を受けさせていただきました。参加者10数名とともに、『かえるの歌』のゲッゲッゲッの輪唱にも大きな口を開け、つかの間 現実から童心に戻りました。

その後、再び階上中学校へ戻り3時30分よりヨーガ療法を行いました。今回は小学生のみ7名の参加もあり、途中飽きてしまうかと思われましたが、フェーススケールにも気持ちよく協力をしてくれ、最後までお付き合いをいただきました。

午後5時頃に日帰り班4名を見送り、クラブハウスでの思いがけない夕食のおもてなしを受け、札幌から来ていた7名の音楽療法関係者や統合医療東北支部の仁田先生などと楽しい歓談の時間を持つことができました。宿泊も気仙沼は被害が大きく、通常の宿泊施設では無理なためこれまた予想外の場所での宿泊となり非日常を体験できました。

18日は10時30分より、予定を変更し避難場所で音楽療法が始まるとのことでしたので、セッティングの合間に昨日と同じようにヨーガ療法をさせていただきました。音楽療法が始まって、皆さん舞台傍に集まって実習されていましたが、居住区に残っていらっしゃる方もいらっしゃいましたので、3名でそれぞれの生活のスペースをまわり、傾聴中心のヨーガ療法となりました。音楽療法に参加できないでいる方たちに話しかけ、音楽を聴きながらも個人にヨーガ療法をできたことも、避難所における統合医療の一端になったのではないかと感じました。

学校の敷地内には仮設住宅が立ち並び、何度も抽選にはずれ取り残されていくような不安を訴えるお年寄りや、外から来た私たちに、助けられ命はあるものの生死をかけた恐ろしい体験など、時々涙ぐみながら話されるのを黙って聞くしかない無力さを感じましたが、これから暑い夏に向けてまた新たな問題や避難場所での暮らしを思うにつけ、微力ではありますが少しでも私たちがお役に立てるのであれば嬉しいと思いました。

今回温かくお迎えいただきました、カントリークラブの千葉理事長さんをはじめ、お世話になりました方々に、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

